

認知症を理解する

認知症とは？

認知症とは、脳の障害により、これまで培ってきた記憶や思考などの能力が徐々に低下し、日常生活に支障をきたす状態です。

主な認知症のタイプ別特徴

アルツハイマー型認知症

- ゆっくりと悪くなる
- 初期から重度のもの忘れ
- とりつくろい
- もの盗られ妄想
- お金の計算ができなくなる

前頭側頭型認知症

- 性格や行動の変化が顕著
- 抑制がきかなくなり、万引きや信号無視など社会ルールに違反することがある
- 同じパターンの行動を繰り返す
- 過食、何でも口にするなど食行動の異常
- 初老期に多い

血管性認知症

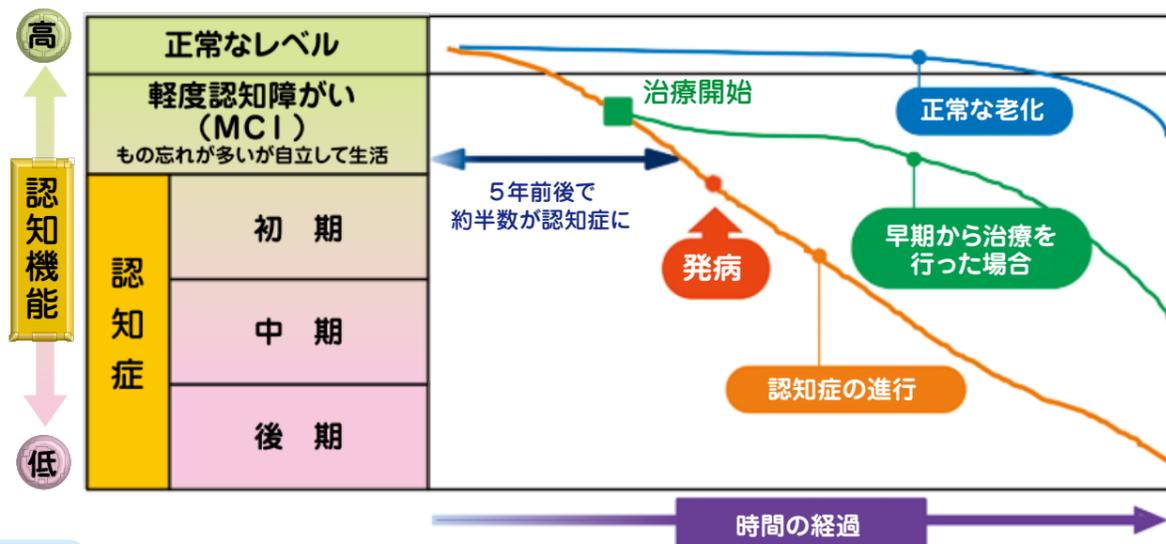
- 脳血管障害が起こるたびに段階的に進行する
- 気分が落ち込む、イライラする、怒りやすくなるなど感情が不安定
- 記憶障害は軽く、人格や判断力は保たれることが多い
- ものごとの手順がわからなくなる

レビー小体型認知症

- 人物や動物、昆虫など具体的な幻覚や妄想がある
- 初期では手が震えるが、進行すると筋肉が固くなって震えが止まる
- 歩行が小刻みになり、転倒しやすくなる
- 症状が変動する

このほか、
 ○ 髄液に脳が圧迫される『正常圧水頭症』 ○ 脳の中に血液の塊ができ脳が圧迫される『慢性硬膜下血腫』
 ○ 甲状腺ホルモンの分泌が低下して認知症状が出る『甲状腺機能低下症』
 それ以外にも頭部の病気やケガなど様々な原因で発症することがあります。

～代表的な認知症であるアルツハイマー型認知症の進行の例～

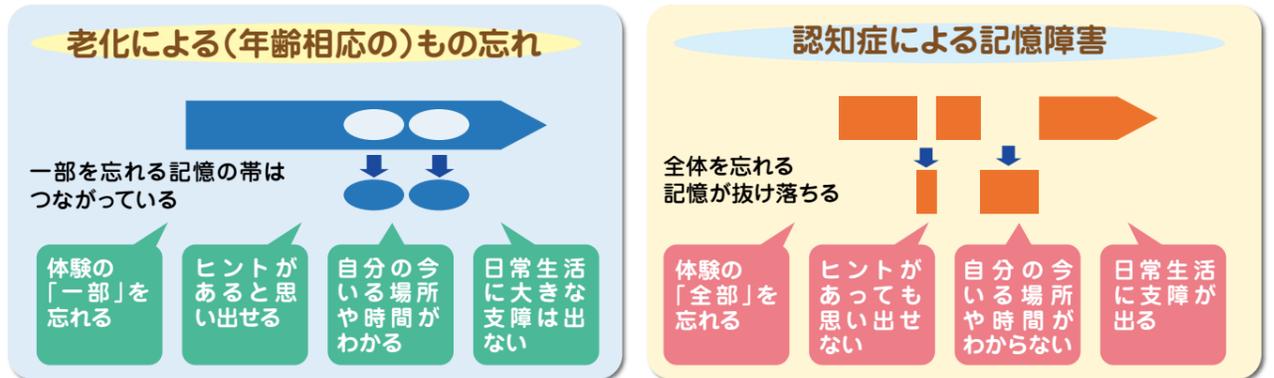


認知症の症状

認知症の人には、原因となる病気の違いなどにより、程度の差はありますが、共通して現れる症状があります。

記憶障害

【症状の例】新しいことが覚えられない、体験や出来事を忘れる、など。記憶障害は、老化による「もの忘れ」との区別が難しいものです。次のような違いがあります。



見当識障害

【症状の例】場所や時間がわからない、近所で道に迷う、など。

実行機能障害

【症状の例】段取りが立てられない、言葉がうまく使えない、など。

理解・判断力の障害

【症状の例】考えるスピードが遅くなる、など。



こうした症状は認知症の原因となる病気の進行とともに、ゆっくり進行します。また、これらの症状をもとに、本人の心の状態や性格、環境などの影響を受けることにより、妄想や幻覚、不眠や道迷いなどの症状が現れることもあります。これらは周囲が接し方を工夫したり、本人にとって過ごしやすい環境を整えることなどで緩和や予防がある程度可能です。

出典：京都市「気づいて・つながる 認知症ガイドブック」より

どこに相談したらいい？

まずは、かかりつけ医に相談しましょう。もしくは、宜野湾市介護長寿課またはお住まいの地域の地域包括支援センター(背表紙参照)で情報をもらいましょう。

認知症に関する相談ができる医療機関として、「もの忘れ外来」をかかっている医療機関や精神科、神経内科、認知症疾患医療センター等があります。

※認知症疾患医療センターについては、14ページ参照。